



1. 新年度も早一月が過ぎました。

桜若葉がみずみずしい季節となりました。新年度も早一月が過ぎ、子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かってさまざまな取り組みを進めています。

さて、今年度から新しい学習指導要領が全面実施されています。新しい学習指導要領では、育成をめざす3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身につけるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブラーニングの視点に立った授業改善）の推進が求められています。

本校では、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業、周りの人たちとともに考え、学び、新しい発想が生まれる授業、をめざし日々取り組んでおります。そして、本校は若い教職員が多くなってきていますので、教職員の中でもアクティブラーニングの視点に立って日々業務を進めております。真の意味で切磋琢磨、相互支援ができる組織（チーム）になるよう引き続き努力していく所存です。

2. 覆水盆に返らず…

4月のある日、職員室前廊下のはずれで子どもたちが大きな声で言い合いをしている場面に遭遇しました。そこに至るまでに色々なやりとりがあって、我慢の限界がきてついつい言ってしまった言葉だと思いますが、それを聞いた周りの人たちはびっくりするとともに嫌な気持ちになりました。古代日本では、言葉には不思議な力が宿っていると信じられており、発した言葉どおりの結果を現す力があるとされていました。その時は文字通り、その場の雰囲気が一瞬で悪くなり、空気が凍り付きました。

汚い言葉を使うと、その人の汚いところが表に出てきます。汚いところが出てくると、さらに汚い言葉が出てきます。汚い言葉は相手の人格を傷つけ、相手と汚い言葉の言い合いに発展します。そして、さらにところが汚くなる・・・その悪循環に陥ります。しかし、他人に聞かせて（発して）しまった言葉や過ぎ去った時間は取り戻すことができません。最近では、SNS上で女子プロレスラーがひどい言葉で誹謗中傷を受け、ところが傷つき、亡くなるといった事件もありました。

いつの時代もあきらかな悪意を持って、あるいは、一時的な感情に流されて汚い言葉を投げかける人はいます。個人的には悪意は大して無くても、そういう言い方が癖になっている人もいます。そんな時には汚い言葉で言い返すのではなく、「こんな人もいる」「こういうこともある」として、冷静に対処して欲しいと思います。

本校は、道徳・人権教育を基盤とした心の教育を推進しています。それは、「自分を大切にしたい」という願いからです。自分を大切にできる人は自分以外も大切にできます。自分の心や体を傷つけることは決してあってはなりません。自分以外も同様です。ぜひ、汚い言葉ではなく、自分も相手も元気づける、勇気づける言葉を多用して「良い仲間」を築いて欲しいです。